



ESHIMA KISEKI
4 vol. A 220,-

八 | 巻

忠臣平記

四

~13
4286
4



NT3
4286
14



忠臣界大平記 卷四目錄

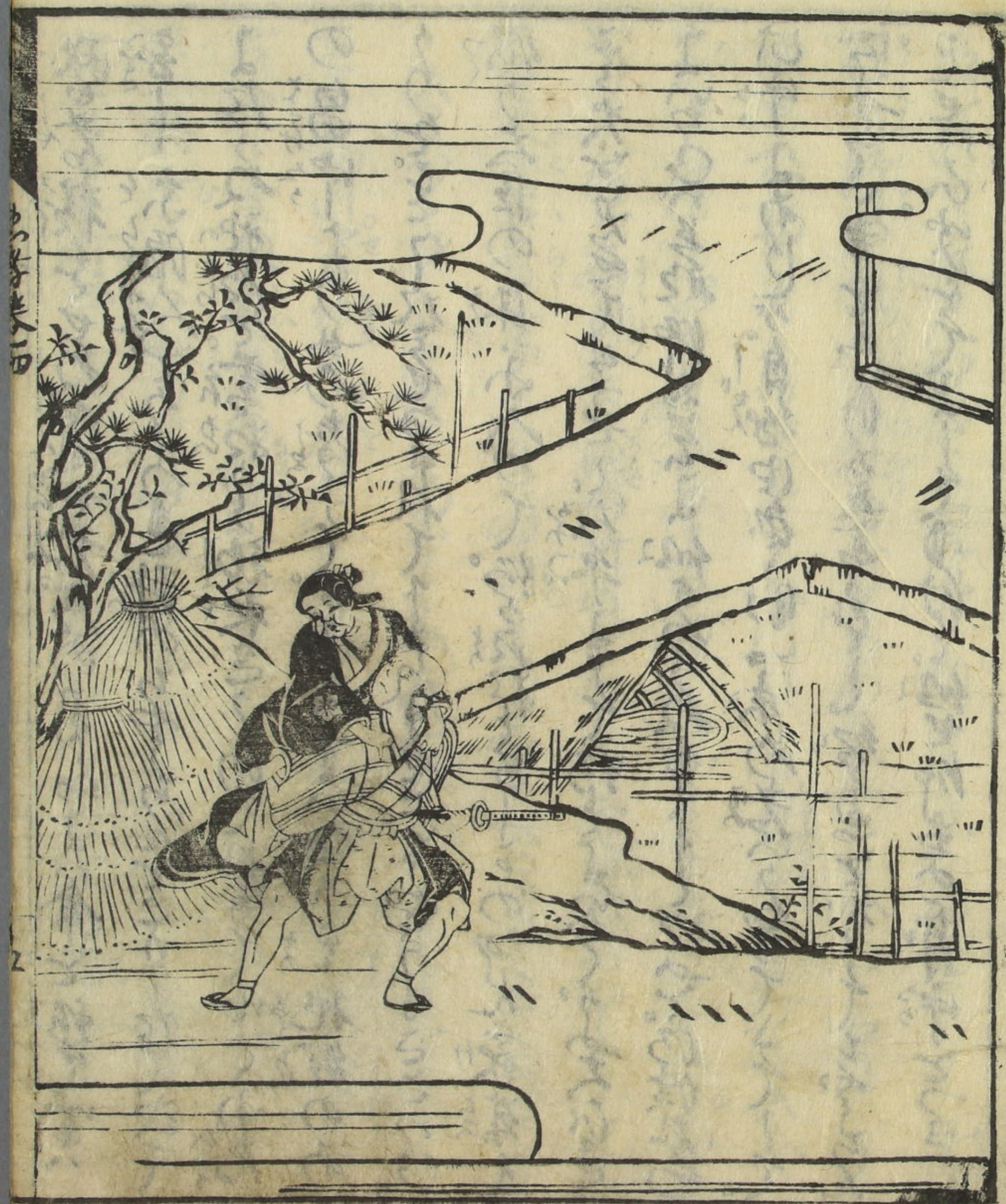
室が産月朱雀の跡の法

わしはこれれぬ胞子の紋を此けて學
中一の機が急んずるを此を初め
計りのとる園の如

焼甲如編笠のつらり白世大匠

月人の枕屏風とくよはたぬを然り
高賣り如あるよ氣がひを折紙の如
同くたを方便此服病





醫者様をせの道世にたの月らよ命と死て実
 野一素浪人たりし是對のちちんとてかたて成て
 したるぬれを言わう物成さうのてねりてゆくおた
 の畠中より女の考してかたよ家のまうを地元のわ
 くらをさうこれをもたれて下されまをさうさうさうの
 仰り大臣の取小入りて仰らぬは女一よめかんだ家持た
 さま火とんせしとせした年まうて何とまうてかたよめ
 よいつのぶぶ師もまよぬらうぬまうしつとよ津たの
 け伴よわりが身成はぬぬ一床の考いあうてさうして
 さふちの事とまうてかたよめとてかたよめとてかたよ
 んせまうてさうしてさうしてかたよめとてかたよめとて

ねといとせとんじもせびよち仲よ大森者せとて安
 程法師の素人事社わががらの気ぬと今のこひひら
 ぬさうたぬとさうして一人引きて畠中とたらの只今
 火とんせしとせした年まうて何とまうてかたよめ
 仰りまはが太角屋の地の竹のさうとて股とつてさうと
 ませぬ岩芳がうおはの口とてまをさうして下されませ
 といどめとてさうとてさうとてさうとてさうとてさう
 とせまうてさうとてさうとてさうとてさうとてさう
 ざらりさぬ負買の情がらとてさうとてさうとてさう
 けお情をよいさうとてさうとてさうとてさうとてさう
 おうて事町がらゆけは十七夜は月東丸心の理よまう

木の梢と照のりさの野たよ登の魁とらんらうら
 のひの月氣愛で女中の西渡らんとてつらりわりのさく
 影紙それのあまきといひくぼの世果の愚女も中ら
 うと女もさのらと老をわらふらう先より笑かまをわら
 くらわあゆのど野中よととめんとすまを情の屋の
 大匠まよえ約束愛留とらぬまもどかしてやうまのえ
 う。今らうやといひさわてたつとてだけ。さやうくやう
 足おほの都の葉屋へけら。やもたさうらわあひらと冷
 汗がうしてけくくせびふもやうあまの骨下やが逃
 剥くも波でけかたと息よのんで視とまのわ件の女
 よよまり世とさればといふもとさうやもよと打てた

笑いそれのさうそ物ごの久米ららわうてとて
 小我まよとちまどこの今日さう一男其意の指と平産され
 そよのてとわわのやうにやそれぬまの定致うそわ
 ものと子孫とはして書方に捨よゆと一胞と吟味よ
 ゆとさのん毛つともりさうそのさうと再くかたつ縁て留よ
 とさあめてわらう。影よ似てやえとみくく。あの方
 よまらなれなきの女命命がらう。あつと意のなきらよつ
 とわてび里れ意と信と死車と晒とを中らわの中
 ともとわんからうととわりける。採ひ取くとおけら。三月
 の時湯うらうとてう。あおあもろ。さう影くなら。女の女
 して一は男お下帯に男みさへう中らも切らひられか

がりの度家といふわもつ事さういふ所のよんいふく
園の表もきらなれうづらたむかふ。それと地づの草を
中と。毛汗世して事社中なる小後いあをり

統平此編をうらむより似えた

善好うつる本行始よ事。かがるためかれ何とて世用の言
事しなむいふに。今時の世なる人合とくと念念をうらむ事
本つらうの考かりんとつらうか。おつこら。血撲絶海の
南貴とくわ。智恵深かひかして我より純とる信よま
なれ性高わらかどくして。高んせんよ。す廻り梅の
まこと紙のあけてはとさうり。う津の美の孫八は友作

是より後念よ。あよとつめて。敵わの名代。うらであら
つくと事。たといづあひ。器若の業との。下手は月代とさ
とぐとく。ゆりかひ。必地か。もを。念が。敵の。せの。あひ。地
花のうら。とさうら。大名の。火よ。らつた。や。は。わの。い。せん
うら。か。せ。い。優。う。て。く。せ。程。い。と。う。か。と。う。う。か。り
い。わ。り。と。と。七。夕。御。の。廣。た。ま。は。よ。神。を。志。あ。と。下。家。の。歴。の
を。敵。お。て。い。の。事。コ。ク。本。の。男。な。れ。い。づ。ん。わ。ら。ぶ。と。さ。う。ら
り。孫。と。う。ら。う。う。た。社。よ。肩。を。い。ひ。の。せ。ま。る。る。が。い。と。松。い。て
事。社。よ。と。を。ら。く。へ。を。さ。る。ぬ。く。の。事。り。世。い。け。中。赤。桐。て
端。さ。う。ら。へ。を。ん。と。親。お。智。恵。で。を。志。の。信。の。丸。梅。の。室。形
を。は。ら。を。毛。高。端。よ。焼。さ。て。雜。印。の。う。ら。く。を。さ。せ

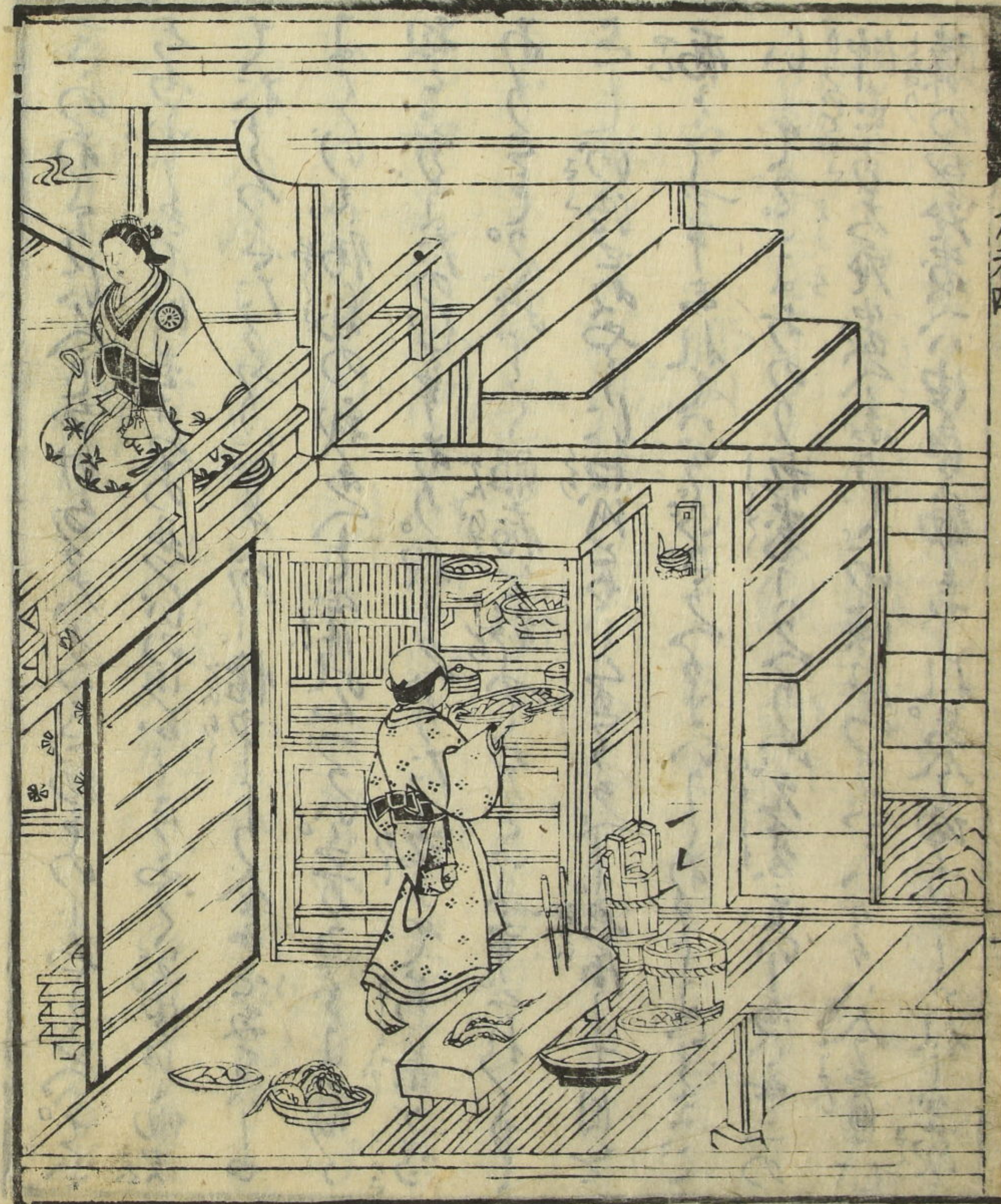
て念ふ。とんとわらつゝいふ。たまたまでかやう。は格
 格とつて酒との。隣は友とてわらう。と怒りやうか
 る大さの。九の女。命をまけつてく。を。多系。い。亮十人。が
 りを。ま。つ。の。大踊。眼。ま。ご。り。さ。れ。の。春。の。芳。舞。妓
 役。の。物。ま。の。に。柵。の。は。入。て。の。ま。が。ま。れ。の。舞。目。に
 けり。う。の。ま。つ。て。い。何。今。青。丸。舞。一。羽。中。令。お。あ。け。を
 ろ。あ。じ。く。の。河。は。流。れ。い。ま。ん。入。う。て。は。紙。向。金。と。由
 ら。助。が。び。汁。よ。大。方。あ。つ。て。ひ。ら。と。網。よ。か。る。下。と。胸
 よ。舞。十。羽。舞。の。お。ち。ご。て。お。り。う。い。事。の。早。小。と。い
 ら。ど。と。く。飲。め。う。が。寝。ぬ。ま。う。つ。ご。と。を。床。よ。入。を。お。わ
 へ。と。う。と。ま。う。と。と。先。の。ま。や。め。を。せ。て。は。何。止。ぬ。も。と。い

ぶれ。な。ぐ。し。て。床。を。と。せ。け。つ。よ。似。大。長。絲。八。が。格。男。と
 て。屏。風。一。双。と。紙。が。と。よ。二。重。に。い。せ。て。ま。内。よ。夜。具。と。い
 せ。ま。せ。夜。後。ご。ら。の。り。り。ら。ぬ。い。ま。ま。の。密。紙。あ。の。り。ま
 め。や。う。ま。く。ま。い。ま。い。の。津。な。つ。し。じ。つ。と。氣。で。紙。八。り
 ら。や。さ。い。屏。風。と。二。重。よ。た。て。さ。す。あ。の。の。あ。ど。と。ま。い。は。毛
 物。と。う。汁。器。飲。定。て。師。む。ま。の。床。入。と。見。け。や。お。う。屏。風
 と。の。の。の。く。さ。り。ま。時。ま。一。重。の。屏。風。あ。て。あ。る。中。よ。我
 ら。こ。ら。に。逆。ら。の。糸。糸。毛。物。が。赤。皮。の。物。屏。の。格。と。知。り。ま。ぬ
 よ。中。ま。た。は。と。い。つ。ご。と。あ。あ。い。ま。あ。や。う。よ。せ。い。と。い。ま。れ。ハ
 時。の。運。よ。れ。い。必。り。も。け。一。裁。よ。う。さ。う。べ。う。ご。今。青。丸
 ず。ば。ゆ。日。の。紙。と。わ。ら。よ。又。夜。の。床。よ。ぬ。ま。ハ。神。と。た。い。ま

十の巻目

をうたてて床へ入り。膝を委へ由は、助眼病を治す
 神よりなり。黄柏漆の切を自らあて。蛇を治す
 食地は禁食をせよ。三味線も鯛子のさつまいもは
 りとぞい。鯛子はいづこもさつまいもをさつまいも
 一の眼のさつまいもをあげやう。ゆかりやまもやま。
 のどくさやあぢとつら。生貝のさつまいもをあげませいせ
 さつまいもをさつまいも。砂神は石葛を生きておちおちさつまいも
 いづこもさつまいも。私酒をさつまいも。おちおちさつまいも
 さつまいも。おちおちさつまいも。おちおちさつまいも。
 してさつまいものさつまいも。病人は側でさつまいも。
 さいさいよ。いづこもさつまいも。さつまいも。さつまいも。

さのわらにんをけつたさつまいも。何ものさつまいも。
 ちよ小で師をさつまいも。おちおちさつまいも。由は助眼
 てたさつまいも。さつまいも。懐中さつまいも。さつまいも。いづこも
 よくさつまいも。病氣の我をさつまいも。さつまいも。さつまいも。さつまいも。
 ねをさつまいも。さつまいも。おちおちさつまいも。さつまいも。さつまいも。さつまいも。
 ありさつまいも。さつまいも。眼病をさつまいも。さつまいも。さつまいも。さつまいも。
 さつまいも。さつまいも。さつまいも。さつまいも。さつまいも。さつまいも。さつまいも。さつまいも。
 病とさつまいも。さつまいも。さつまいも。さつまいも。さつまいも。さつまいも。さつまいも。さつまいも。
 いづこもさつまいも。さつまいも。さつまいも。さつまいも。さつまいも。さつまいも。さつまいも。さつまいも。
 師をさつまいも。さつまいも。さつまいも。さつまいも。さつまいも。さつまいも。さつまいも。さつまいも。
 膝のさつまいも。さつまいも。さつまいも。さつまいも。さつまいも。さつまいも。さつまいも。さつまいも。



忠と孝との二ツ縄の甲子一死

秋の風ゆりく吹て寒むれ米屋は痛ををた背や
孫の家はれけ言ふして昼夜して夜ふをうり。曆の
つぎんをたんとて或昔十日にといへば風を吹て一味
の方よりお來せし密談の事知れどもくさあゆを
由はし助國素て我をよとれ。服をひらき彼物どもりり
たつたれ集めて文庫の層へをへ。又目とらうこりかり
てやみしと一人の下女茶の「焼てのそへ病」を由はし
助の内室を來らとて一人にれども目をつけけりてや
裏へ下いをもぞいりして胸えを寄服抱して一カよ

つさうらう。藪の中を踏て死骸を埋きりげき神
よりそかりははし助よ密あよとれけらや。密は居病の
歌は神めをそんたあろとりりしそはのそや。ゆるよ只
今文どもららとねわのわなきそい事。素居の下女はよ
見たる様子ゆへわふし人事をたれづんかづ。即ち
よりよあしそはかり。ゆは後また人例よ人をくた。信育
人のごもくせうとて。おまへてはしりみととれ。まは
由はし助もみおて女性よ稀わらん。危難をいへてゆと
それゆりい。急病をよ眼をひらぐ。真の商人の神をよ
まひたれ。人疑のらり。まは病氣と唱りて。よと敵
の形はよはをゆり。目よ用ひか。たまつて。変しを置

忠平次とつり者もとは父の後忠ありしが。老父忠を
 事しよ今生る暇乞せんため。古く揚州を里小野村より。
 右の郷とゆりなれむ。父父子のあり。園のや遠いせん。海
 邊の及よ。朝来るれ。どのの。山。とわづら。び
 夜一。余と。し。は。人。は。指。さ。や。の
 事い。わ。づ。す。向。後。家。お。さ。り。就。余。余。の。中。八。前。の。油。は
 て。と。後。賣。い。や。と。ふ。や。い。つ。い。ま。を。さ。り。割。い。ら。ぶ
 め。ん。作。ら。や。と。い。と。一。夜。入。た。め。つ。ら。上。の。朝。来。故
 系。よ。ら。べ。づ。ま。と。傍。守。の。西。と。張。く。義。と。い。び。て
 い。へ。ぶ。ぶ。く。の。教。と。う。ち。か。り。お。ひ。お。り。づ。ら。い。れ。な。れ。を
 父。の。外。に。風。矢。と。も。作。は。と。の。母。が。み。ま。う。と。べ。一。半。と。て。け。て。い。

いさくは。美。見。を。り。い。と。わ。と。と。も。あ。る。ぬ。を。の。男。と。と。え。ん
 と。わ。り。じ。ご。お。存。わ。の。り。と。不。孝。の。事。り。七。生。と。元。幼。而
 かり。さ。せ。い。り。け。ら。忠。平。次。今。生。る。と。い。は。ん。こ。ら。い。ま。ま。く。い。ら。い。と
 を。こ。ら。て。親。の。を。を。実。め。け。ら。替。わ。の。て。一。方。よ。引。越。つ。て
 ぐ。あ。い。め。づ。ら。忠。と。た。え。と。と。れ。孝。と。し。と。父。又。順。へ。が
 傍。守。の。約。また。ぐ。取。給。自。害。し。て。お。果。じ。あ。ら。と。法。と。と
 志。を。あ。い。さんと。胸。を。こ。い。め。て。わ。り。け。ら。法。よ。萬。世。の。善。と
 あり。志。や。ぐ。や。う。く。も。あ。れ。あ。り。幸。い。わ。れ。じ。忠。平。次。が。の。の
 中。わ。い。ん。く。も。して。不。便。たり。と。知。る。もの。の。他。と。ま。が。り。ぬ

下人が智恵の海なる汁器

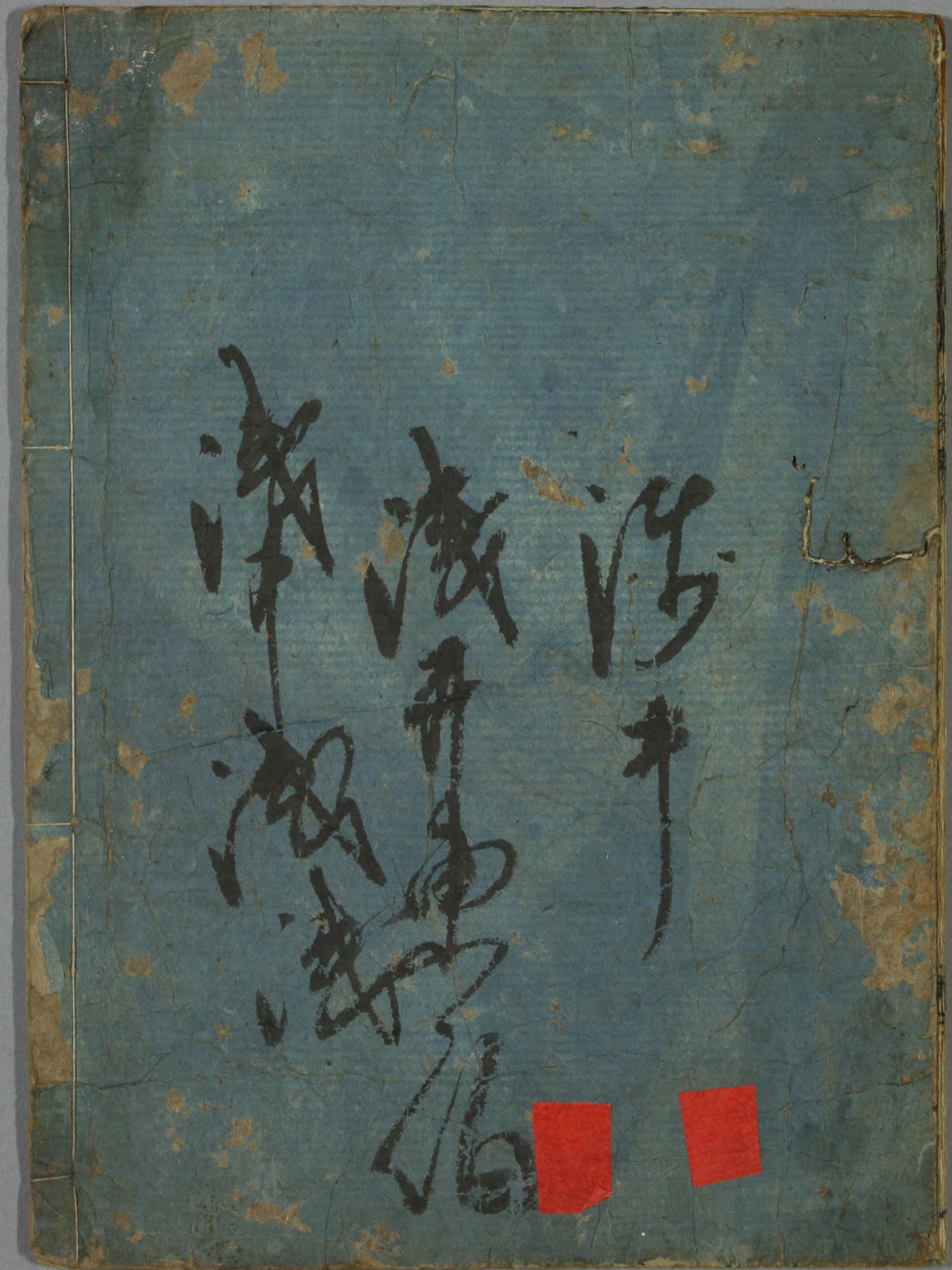
鳥羽らりく啼て我死を詢やしむいあされ一羽の
羽屋よ入てん羽屋よけ紙を一通の書をもよみてわ刀を
とりすぞふ自殺せんとも下人の志をば神と
あり。もつて刀に力をこめて。先きうくと斬りあてりけり
今の親也のまきく作らるへ候。物陰より斬りぬる
れがど豪なり。定る由自害力やされんとんがけて
おまじしぐおよまたぐつどから仕合。格りまがらお格作りぬさ
りながら。今をこへ由生害の義由延列るまがら。斬り棄てぬ
て父由の由赦とくやうたすい。由中もをさげらるやうよ
作り見りさん先それい必卒忽の由あまいあるべうと
お家代様とるまぐとまがけは忠平次我をちつて流す下

羽屋よ入てん羽屋よけ紙を一通の書をもよみてわ刀を
とりすぞふ自殺せんとも下人の志をば神と
あり。もつて刀に力をこめて。先きうくと斬りあてりけり
今の親也のまきく作らるへ候。物陰より斬りぬる
れがど豪なり。定る由自害力やされんとんがけて
おまじしぐおよまたぐつどから仕合。格りまがらお格作りぬさ
りながら。今をこへ由生害の義由延列るまがら。斬り棄てぬ
て父由の由赦とくやうたすい。由中もをさげらるやうよ
作り見りさん先それい必卒忽の由あまいあるべうと
お家代様とるまぐとまがけは忠平次我をちつて流す下

つゝ思ふもよふ親とてりよが曲事やうば先我わりの思ふ
うかゆふ思とてうらぐらぐらあまをたゞて笑ひたれば
おちなつ忽ち赤面して涙をらうくとびぐら我をてんかされ
し子よまよひして一生をわまたんぞぢあふ汝が只今の
あかひいひんよ武と守る神の教とばかりなり。家業なり
汝を叱ていひたる事なむいぢく我とせらるより抱さず
して後々ものつゝ詞化人よいのせぬ先よ我とてり
わやまりをうまへいひまご武運よつゝはるあやせむ年次
祇患のたよ速いて汝よ不忠不義のあかきうせんと
せし事。和厚があつとも面目あり。あかきうきて汝よの
かり。一味同致してい志のるよ討死とていぢくとて守代

つゝ一筋をぬかへ。是よりいふよく働くぢくと忠孝は
よつらせばあつたがうらうらとていふていふて働よとてい
角ぬかすとてうらうらとていふよ汝がなとていふていふてい
とていふていふていふていふていふていふていふていふてい
あまの形とていふていふていふていふていふていふていふてい
のうらうらとていふていふていふていふていふていふていふてい

忠臣界太平記卷之四終



清法海
清神平